

福祉 × 農業 × 魅せる

さまざまな野菜を育てながら、日々成長していく感動を味わえる農場



≡(★注目ポイント★)≡

- 1 工賃向上に向け、手数料のかかる直売所への出荷からレストランや事業所での直販売に徐々にシフト
- 2 日頃の挨拶や農地管理に励む姿が住民の心を動かし、声をかけられたり農地を貸してもらえる機会が増加
- 3 単価の高い作物を多く栽培することで、無理のないペースですすめつつも一定の水準の工賃を支給可能に

特定非営利活動法人アゲイン
アゲインファーム
<http://www.again-kobe.com>
 (兵庫県神戸市)

近隣の直売所
 レストラン

●基本データ(令和3(2021)年11月現在)

〒651-2267
 所在地 兵庫県神戸市西区平野町西戸田 594-11
 TEL 078-983-7276
 開設年 平成22(2010)年
 実施事業 就労継続支援B型 (定員44人、現員43人)ほか
 主たる障がい 知的・精神・発達

利用者の平均年齢 39歳
 福祉事業活動における直接支援職員数 12人
 目標工賃達成指導員の配置 有

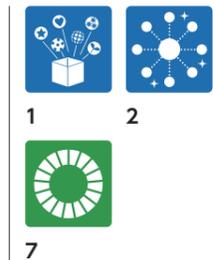


概要

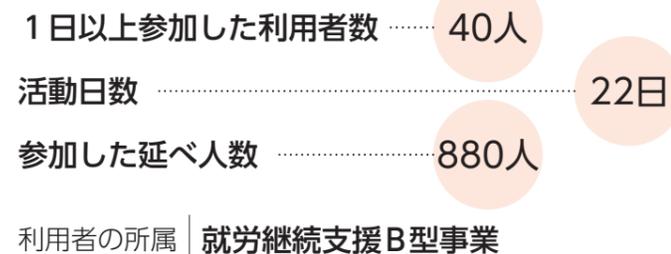
アゲインファームは、農業と障がい者、ひきこもり、ニートの方々の支援の融合をめざし、農業を通じた就労支援を提供しています。兵庫県神戸市内の法人の借り上げ農地で野菜・米の生産、収穫、加工、販売を行っています。

単価が高い作物の栽培を増やす、販売方法を徐々に移行するなど複数の試みを組み合わせ、短い作業時間で一定水準の工賃を出せるようになりました。

SELV Vision 2030



利用者数と活動日数 (令和3年9月実績)



開始までの経緯

運営法人の代表の実家が、地元兵庫で専業農家を営んでいたことを糸口に、平成20(2008)年3月からニートやひきこもりの方々と一緒に農業を行う活動をしていました。

活動を続けながら、ひきこもりの方には発達障がいのある方が多いとわかり、福祉関係者から「障害福祉サービスの就労支援をしないか」と声をかけられたといいます。そして平成22(2010)年には農業と、障がい者、ひきこもり、ニートの方々の支援を融合させる就労支援の取り組みを始めました。



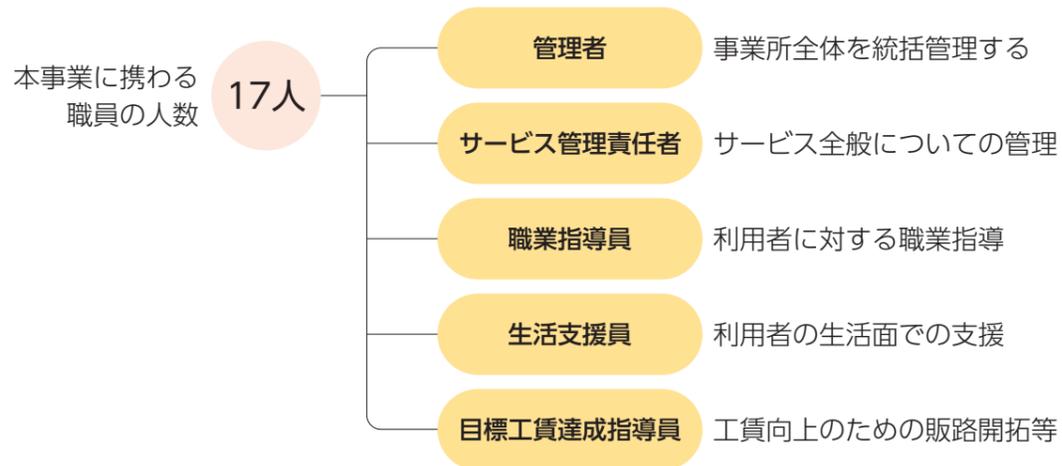
生育を願い苗を植える

具体的な取り組み

アゲインファームは障がい者、ニート、ひきこもりの方々に農業を通じた就労支援を提供しています。

法人の借り上げ農地は兵庫県神戸市内にあります。スタッフひとりと利用者7～8人がチームを組み、それぞれのチームに合った作業と進捗で野菜（ピーマン、ジャガイモ、ゴボウ）・米の生産、収穫、加工、販売を行っています。

職員の役割



職業指導員 利用者が行う作業ごとに指導します。

生活支援員 作業に携わる利用者の心身をサポートし、適宜利用者と面談等を行います。



収穫のコツを学びながら

生産設備・備品等

農作業用	ビニールハウス、暖房機器、トラクター、他
出荷用	野菜用の袋、バックシーラー、貯蔵用冷蔵庫、移動用車両、他
加工品用	パン焼き機、冷蔵庫、冷凍庫、真空パック機、製粉機、他

作業ごとに上記の設備や備品を使用します。補助金等は受けていません。

工夫していること、心がけていること

購買意欲をそそる工夫

できるだけ多くの方が気に留め、購買意欲に結びつくように、作物の品質のばらつきに注意しています。きれいに袋に詰め、商品の見栄えにも気を遣います。

毎年必ずニーズ調査

日頃から取り引きがあるレストランや直売所に聴き取りをして、次年度に育てる作物を検討します。安易に作物を購入してもらう契約を結ぶのではなく、事業所が対応できる栽培の範囲をよく検討し、バランスのとれたニーズ対応を心がけています。



彩り豊かなニンジン



ていねいに収穫したエンドウ豆

課題と対応

課題 夏場の熱中症対策

対応 農業は熱中症等にかかる危険性があることが懸念され、以前は多くの事業所が取り組みをためらっていました。アゲインファームはその考えを打破すべく、塩飴を提供したり、障がい特性によって喉の渇きを自覚することが難しい利用者に休憩や水分補給を促したり、さまざまなアプローチで熱中症対策を行っています。「夏時間」を設け、最も暑い昼頃は室内での袋詰め作業時間に充てるなど、熱中症の危険性を根本から減らす工夫もします。

法人設立から13年、幸い今までひとりも熱中症にかかった方がいないことは誇りだといいます。

課題 障害特性に応じた作業方法

対応 事業所を開業した当初は、屋外作業を求め、特に多数の精神障がいのある方々が見学・体験に来られました。しかし長時間の作業に関わることは難しく、最初は午前中までの短時間作業でスタートし、徐々に時間を延ばしていきました。

工賃の変動

有機栽培など単価の高い作物をより多く栽培することや、手数料のかかる直売所への出荷からレストランへの販売や事業所内での直販売に移行することなどに挑戦し、短い作業時間でも一定の水準の工賃を支給できるようになりました。



反応・効果

利用者の反応・効果

屋外作業が主であり、体力が増し、今後の就労に意欲的になりました。

職員の反応・効果

少ない作業量で最大の成果をめざす方針は、時間を有効に使うことにつながりました。

地域の反応・効果

日々怠らず、農地を管理していることや、挨拶を欠かさないことが地域住民の心を掴み、農地を貸してもらえる機会が増えたそうです。

★ 展望・課題



アゲインファームは、米の栽培量を増やすこと、作物の有機栽培の拡大に注力することを考えています。この取り組みが、より効率のよい農業の探求や収益を重視するばかりではなく、作業体験を通して、障がい者が「おもしろそう、やってみたい」と思える「魅せる農業」につながることをめざしています。

アゲインファームのSDGsへの取り組み

障がい者にとって働きがいのある仕事の場の提供をめざしています。生きいきと働く利用者が納税者となり、社会経済に参加する、社会経済の成長の一翼を担う機会を創るべく、就労を支援しています。

